

日本海区水産試験研究
連絡ニユース

第四號

発行所 日本海区水産研究所
編輯責任者 奥西紅
印刷所 淡
毎月一日発行
6冊
3,700 / 1,271
7冊
1,00 / 1,889

日本海 ③

日本海今春の海況に異変を予想される

能登大嶽定置漁業組合長
石川縣定置漁業組合長
外浦海区漁業調整委員 山寺敏之

今年一三月中旬における漁況中着しき変動あるとのをあげれば、油サメの極度に不漁であったこと、底曳漁業の昭和四五年の如き不振に終ったこと、鱈の接岸が昭和十年後十五六年目に漁獲が多かつたことが目立つ、昭和六年九年の作況を想えば淋しい気がする。

下の統計は鱈は西海村の水産統計で、水稲反収量は石川縣の統計である。

町	水	養魚の漁獲量	水稲反収量
器口町	190	1,959	
2町	180	2,063	
3町	277	2,108	
4町	265	1,985	
5町	977	2,122	

今春の鱈漁況は昭和九年に比し接岸量において劣ると接岸度において着しく岸頭に接近したので、或は夏季早冷の氣候が現われるのでなからうか。

京水高校研洋丸 試験操業許可の予定

先般家生徒の実習と、底魚資源調査を目的として、水産庁に操業許可方を申請中であつた京水高の研洋丸の操業は近々認可される予定で、この試験操業に対しては、日水研の指導によって行なう事になって居り、この具体的な方法に就いては、日水研と京水高の間で連絡中であるが、日水研では底棲魚類の棲息密度に対する底曳網操業度の影響に関する試験を主として行なう予定である。(日水研)

無線及漁況連絡会議開催

かねてより予定されていた石川縣以北の無線及漁

況連絡会議の四月十九、二十日二日間巨して山形縣加茂町の山形縣水試にて開催されるがその趣旨と当日の議題は次の様である。(日水研)

◇ 趣 旨

日本海の水産は御承知の如く太平洋に比し小規模で漁獲の大部分は距岸三十哩を出ていない範囲の所謂沿岸資源を対照として居り沖合は全然未開発の状態であり、ひるがえって日本海全体を考えると大きな一つの池の如きものと假定出来、其処に棲息する魚族の大部分は対馬暖流の影響に依り春から夏には北上し秋から冬にかけては南下するといふ定常的な形態をとり海況の状態に左右される事が非常に多いのであります。故に各地の海況並びに漁況を調査研究し一定の資料集積を行えば、洄游魚に於ては従来困難であると言われた漁況の予報と或る程度は容易になるのではないかと愚考致す次第であります。其の趣旨に従い現在日本海区水産研究所漁況科では皆様の協力を得て各水産駐在員、試験場関係より其の地の詳しい海況及び漁況資料を送っていただき其れを各方面より研究集積し更に漁業者の爲に有力なる参考資料となる採取り纏の各地に送付して居りますか何分にと郵送では日時とか、り急には間に合わぬ場合があります。幸い此の度香住無線局が正式に当海区研究所に所屬致し漁況及び海況の調査研究に關

する通報を行う様になりました故之を利用し各水産試験場試験船並びに海洋気象調査船及び海上保安庁所属船等と緊密なる連絡をとり其の地の海況並びに漁況を迅速にキヤッチしそれを取纏め速に通報致す所存であります。此の個々の資料を供給するとの之を取り纏めて放送する仕事とは船舶輔車の関係にあります故各位におかれては努めて資料の提供に協力されん事を御願ひする次第であります。

◇ 議 題

- 一 漁況放送資料の蒐集方法
- (一) 通信事項

海 況

位置 水温(表面 一〇米、二五米、五〇米、一〇〇米、一五〇米、二〇〇米) 水色 透明度

第十三回日本医学会總會(四月)に、南原東大議長は「我が國の医学が七〇年の歴史を持ち吹米に比して劣らぬのがあったにどうか、わらず、高い死亡率が近年連続したのは何故か」と又「医学の成果が医業に應用されず、公衆の生活に緊要な問題が学問的に多く取り上げられなかった」点を鋭く指摘した。

これを言葉を変えれば水産研究にどうあてはまると思われる。学問が専門化せば専門分科が多くなる事は当然の事であらう。然し水産

漁 探 ③

漁民と研究

(何の役に立つか)

小 川 良 徳

研究者がこれ程問題の要点を正しくとらえていたろうか。宏大なる水界と、それに生活する生物と、それを生産する漁民、この極めて複雑多岐にわたる関連を統一的な漁業生産に関する技術等の研究がなされなければ漁業の近代化は出来ない。私は漁業技術学とと稱する。漁民を苦役から解放するための研究が行われ、労少くして増産出来る様な方法を研究する事が緊急であり、漁業研究者のなすべき事と思う。(筆者は日本水産試験場資源調査利用研究主任)

流向、流速、気象、プランクトンの多少、
漁 況
魚種、漁具、漁獲場所及び主漁場、漁獲高、漁船数、魚の平均体重及び体長、其の地平、常と異つた点、

- (二) 通信時間の協定
- (三) 使用電波周波数の協定
- (四) 実施期日
- 三 要望事項

利用担当官会議

三月十九、二十日の兩日、水産庁調査研究部の主催で利用担当官会議が東京で開催された。第一日は午後一時から霞ヶ関庁舎内会議室で調

査研究部長、研究一課長、各海区利用担当者、官及東大農学部森高次郎、水産研究会村山敏三、水産懇談会柴信一、日本雜誌協会熊倉悟、國際水産漁田重行、水産及畜産司水部、飯塚三吉、山越、日冷研究部山下六郎、白水研究所藤井久、ライオン油脂吉村、北海道水産加工業連合会高岡氏等が列席し懇談会が開催された。藤永部長の利用加工部面の研究の必要性と重視の挨拶の後各列席者より研究所に対する要望、研究の在り方等について希望意見の開陳があり、各海区研究所の担当官から二十五年年度の事業経過についての概要の説明があつて懇談に移った。利用部の在り方については現在の國內の水産加工業者は極めて零細の者が多く、アメリカ等と比較しては列産民間業者に研究を期待する事は無理であり國家的に一層利用加工部面の研究に力を入れ漁獲物の高度完全利用を計るべきであり基礎研究は大学、其の他の研究所で行うべきで産業研究所としては、重点は直接産業に關聯した問題を取掲げるべきであるが、その問題を解決すべき基礎研究が行われておらぬ時には当然基礎研究であつて之を行つべきである。又研究テーマとしては鮮度保持に対する研究の要望が最も多かつたが研究テーマの重要度に依つて順位を定め担当者を決めて各海区、民間業者等と完全な連絡をとつてやるべきであるとの意見が多

みつた。

とあてはまると思われる。学問が専門化せば専門分科が多くなる事は当然の事であろう。然し水産

が緊急であり、漁業研究者の存すべき事と思ふ。(筆者は白水研員兼介資源調査利用研究主任)

完全な連絡をとってやるべきであるとの意見が多

か。った。

尚今後は度々この様な機会を作り更に生産者消費者、通産省等の人達の意見と聞き利用部に於ける研究の推進方法に万全を期することに於て午後五時散会した。

第二日は午前十時より月島の東海区水研に於て部長、研究一課長、係官、研究二課係官、各海区利用担当官が出席して開催された。

先づ各海区担当官より二十五年年度の事業経過について説明及検討がなされた。

主なる研究テーマを挙げると次の様である。

北海道

- (1) 鯨の鮮度と身欠きの品質との関係
- (2) スケソウ及ホッケ肉臍白の研究
- (3) 鯨胃フロラーゼの研究
- (4) エソフスレ貝、ヒメエソボラ毒成分の研究
- (5) フヂマツモの駆虫成分の研究
- (6) スルメイカの生化学的研究
- (7) 輸出水産物(煙藏)の示変菌に関する研究
- (8) 煉製品の保藏に関する研究
- (9) 環境衛生に関する調査
- (10) 魚油、ビタミンに関する研究
- (11) ニシン等の調理機械に関する改良試験

東北

(1) サメの総合処理に関する研究

多脂魚の微生物(酸、臭)に依る処理法の研究

寒天の研究

東海

- (1) 魚肉及魚皮の蛋白質の理化学的研究
- (2) 鰯下垂体ホルモンの研究
- (3) 魚油食用化の研究
- (4) 深海産鯊油の研究
- (5) 魚類腸管リパーゼの研究
- (6) 魚類の肉質及内臓のビタミンAの研究
- (7) キトールの研究
- (8) 冷凍メカシキの鯨交肉、鯨油濃縮法の青肉に関する研究
- (9) 魚肉の鮮度簡易測定法の研究
- (10) 水産製品の検査規則に関する研究
- (11) フラン誘導体の煉製品防菌に関する研究
- (12) 防腐剤に依る鮮度保持試験
- (13) しらす等の中毒防止に関する研究
- (14) 貝類の毒化に関する研究
- (15) 漁船用冷凍機の研究
- (16) 高周波應用に関する研究
- (17) 其の他電気スリクローシ、漁網染料等に関する研究

南海区

なし

西海区

- (1) 漁獲物早期の生化学的研究
 - (2) 魚類肝臓の発癌防止の研究
 - (3) 酸菌に依る魚肉保藏の研究
 - (4) フラスキン及ロタン酸液エチールエステルの防腐効果に関する研究
 - (5) 乾燥品の貯蔵に関する研究
- 日本海区
- (1) 赤外線に依る魚肉の乾燥に関する研究
 - (2) 乾物の吸湿性に関する研究
 - (3) 煮乾品の油焼防止に関する研究
 - (4) 煉製品の保存試験
 - (5) 電水の防腐効果に関する研究
 - (6) 煮熱品の酸に依る保藏試験
 - (7) 牡蠣の利用に関する研究
 - (8) 昆布の加工に関する研究
 - (9) 水質汚濁防止に関する研究
- 統いて二十六年年度の事業計画の説明及調整に入るべきであったが、席間の關係ニ省略し海区提案事項の審議を行った。
- 海区提案事項
- (1) 研究課題の検討に関する件(東北)
 - (2) 利用研究を能率的に推進する体制の確立(東海)
 - (3) 研究成果の普及、方策の確立(東海)
 - (4) 研究テーマの選定、連絡方法に関する件(日本海)

(5) 利用部充実に関する件(日本海)

各提出者より説明があったが何れも本質的に同様な問題であったので一覽討議し、研究班の如きものを作って研究当事者が会合する機会を持つこととし、班及其の世話人は研究一課で案を作製し次の所長会議で決定することとした。勿論この研究班(例えば蛋白班、保藏班、油脂、ビタミン班等)には水研のみならず地方水試の希望者の加入も考慮であることとした。

二十七年度予算製作方針は新しい観点から水産の重要性を認識せざる可きテーマを決定し利用部に於ける重要性を認める案を所長会議迄に作製する事として午後八時散会した。

初めての利用担当官会議であり不充分の所が多かったが、極めて熱心に討議され得る所が多かった。唯二日間の会議を通じて見られた事は比較的高度の技術を要して相当の資本を有しなければ産業化されない様存箇々の研究テーマが扱げられ日本の水産業の大多数を占め然と研究の必要性の叫声さえも挙げられな小業者が最も研究を必要にして居る様を一般には通俗的な大衆的な低度の技術と見られている塩蔵、塩乾、乾燥、油焼防止等の研究テーマ、又は最も基礎的な資料となる様な重要魚種の成分、歩留調査、実態調査等の基礎的調査が極めて軽視される傾向に見られた。

日水研香住支所 談話會の近況

日水研香住支所では毎月一回所員の研究意欲の向上を期するために月例談話會を行つて居るが三月末には二十五年度の縮く、りとして左記の研究題目が発表討論された。(日水研)

一、気象に就いて 無線局 船塚新南

二、水質汚染の一例 利用部 佃 信夫

三、自己消化蛋白分解酵素に対する塩類の影響 利用部 木崎五一

四、深海魚の体脂の研究 「ホラアナゴ」の体脂に就いて 利用部 平二三天

五、魚肉蛋白質の物理化学的研究 「第一報」其の二 魚肉のコロイド測定曲線の追跡 利用部 大竹茂天 尾藤方通 山本常治 高橋信江

六、魚肉蛋白質の物理化学的研究 「第二報」 其一、魚肉の死後に於ける沈澱剤に対する観察 利用部 山本常治

七、魚肉蛋白質の物理化学的研究 陰陽性沈澱剤より見た魚肉死後変化 利用部 尾藤方通

八、魚肉腐敗過程に於ける有菌的並に無菌的变化のアミノ酸の消長に就いて 利用部 尾藤方通

人事異動(一月-四月)

- 二月一日附 雇 坪野乙吉
- 日水研七尾丸甲板員を命ずる
- 二月一日附 農林技官 宮田和天
- 日水研勤務を命ずる
- 三月十五日附 所長 内藤 潔
- 日水研資源部長兼務を命ずる
- 三月十五日附 利用部長 野口栄三郎
- 日水研香住支所長兼務を命ずる
- 三月三十一日附 退職 越智勝弘 西田よし子 高橋信江
- 四月十五日附 退職 第二旭丸船長 千葉君治

あとがき

日水研と密着して二年度の春を迎える事になったがこの間内外の情勢は急変し又研究機関と同様に変化しつつある。

第四号より主要人筆の異動を掲載する事にしましたので各水試、学校に於ける分と何卒お連絡下さいませ。

尚本号に「日本海」の有益なる論説を山寺敬之氏より「漁採」の有益なる隨筆を小川良徳技官より載せ厚くお礼申し上げます。

- 九、防腐剤試験効果 利用部 高橋信江
- 十、各種魚肉の粘着性に及ぼす食塩の影響 利用部 大竹茂天
- 但馬地方水産業に及ぼす地理的要因の一考察 利用部長 野口栄三郎